

平成21年度

石巻市自然環境確認調査結果報告書

平成22年3月

石巻市

目次

1	「自然環境確認調査」について	1
2	調査方法	1
3	調査経過	1
4	調査結果	
	(1) 網地島	4
	(2) 波板大磯	19
	(3) 岸山王島・沖山王島・指浜（泊浜）	23
	(4) 京ヶ森	29
	参考資料	
	・ 石巻市域における宮城県レッドデータブック掲載植物群落一覧	39

1 「自然環境確認調査」について

「自然環境確認調査」は、本市の多様で豊かな自然と共生していくため、開発等により変化していく地域の自然環境を正確に把握することを目的とした事業であり、石巻市環境基本計画のリーディング・プロジェクトの一つとして平成19年度から10年間にわたり実施することとしている。

2 調査方法

(1) 調査地の選定

平成21年度は、本市の海岸・島嶼地域及び山地・丘陵地域を調査した。

- ・ 海岸：波板大磯、指浜（泊浜）、
- ・ 島嶼：網地島、岸山王島・沖山王島（泊浜）
- ・ 山地：京ヶ森

(2) 調査方法

調査は、1箇所2、3時間で調査可能なコースを設定し、コースに沿って歩きながら観察を行い、確認した植物と自然度の高い森林群落を記録する。記録は、現地で自然環境確認調査票（現地確認用）に記載したものを自然環境確認調査総括調査票に整理する。

調査に当たっては、自然林の優占種となる高木樹種、常緑樹種、レッドデータブック掲載種（絶滅危惧種など）、開花・結実しているものに留意し、哺乳類、爬虫類、両生類、鳥類、魚類、昆虫類などの動物についても記録する。

群落については、その群落の主な構成種を階層別に記録する。

(3) 記録の整理

記録に基づいて調査地区の自然環境についての考察を行い、確認事項を整理する。

3 調査経過

(1) 調査委員の委嘱

委嘱期間：平成21年の6月から11月まで

調査委員：次の3名の方々に委嘱した。

- ・ 中間温帯植物研究所 佐々木豊氏
- ・ 石巻専修大学理工学部基礎理学科教授 根本智行氏

- ・ 石巻市環境保全リーダー6期生 佐藤堯氏

※ 環境保全リーダーは、市が環境教育や環境保全活動におけるリーダーとなれる人材を育成するため開催した講座を修了した者である。講座は、環境に関する専門知識や技術の習得について学ぶものとなっている。環境保全リーダーは、学校や町内会、職場、市民グループなどにおける環境保全活動を推進する人材として活躍している。

(2) 第1回検討会

調査委員に委嘱状を交付したあと、今年度の調査箇所、調査時期、調査内容等について検討した。

- ・ 開催年月日：平成21年4月28日（火）午後2時から午後3時30分まで
- ・ 開催場所：石巻市総合体育館ミーティングルームA
- ・ 出席者：調査委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏
環境対策課 鷹見主幹

(3) 第1回調査

- ・ 調査年月日：平成21年5月23日（土）・24日（日）
- ・ 調査場所：網地島
- ・ 参加者：調査委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏
環境対策課 鷹見主幹、西條主事

(4) 第2回調査

- ・ 調査年月日：平成21年7月7日（火）
- ・ 調査場所：雄勝町分浜字波板大磯
- ・ 参加者：調査委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏
環境対策課 鷹見主幹

(5) 第3回調査

- ・ 調査年月日：平成21年10月4日（日）午前10時30分から午後0時45分まで
- ・ 調査場所：岸山王島・沖山王島、指浜（牡鹿半島の東側にある泊浜の漁港のすぐ近くにある二つの島とその南側にある砂浜）
- ・ 参加者：調査委員 佐々木豊氏、根本智行氏
環境対策課 鷹見主幹

(6) 第4回調査

今後の調査に向けて関心を持つ者を増やす目的で、環境保全リーダーへの研修

会も兼ねて実施した。調査の内容上多くの者への対応はできないため、15人以内で募集したところ、14人が応募し、当日は諸事情にて参加できなかった3人を除き11人が参加した。参加した者は調査に興味を持ったようだ。今後に期待したい。

・調査年月日：平成21年10月18日（日）午前10時から午後2時30分まで

・調査場所：京ヶ森

・参加者：調査委員 佐々木豊氏、根本智行氏、佐藤堯氏

環境保全リーダー 阿部恵美子氏、阿部恭一氏、亀井清治氏、
小野真理氏、鈴木貞夫氏、伊藤八郎氏、
阿部勝利氏、阿部勝治氏、太田美智子氏、
佐々木佳代氏、岸本祐治氏

環境対策課 鷹見主幹、阿部主任主事

4 調査結果

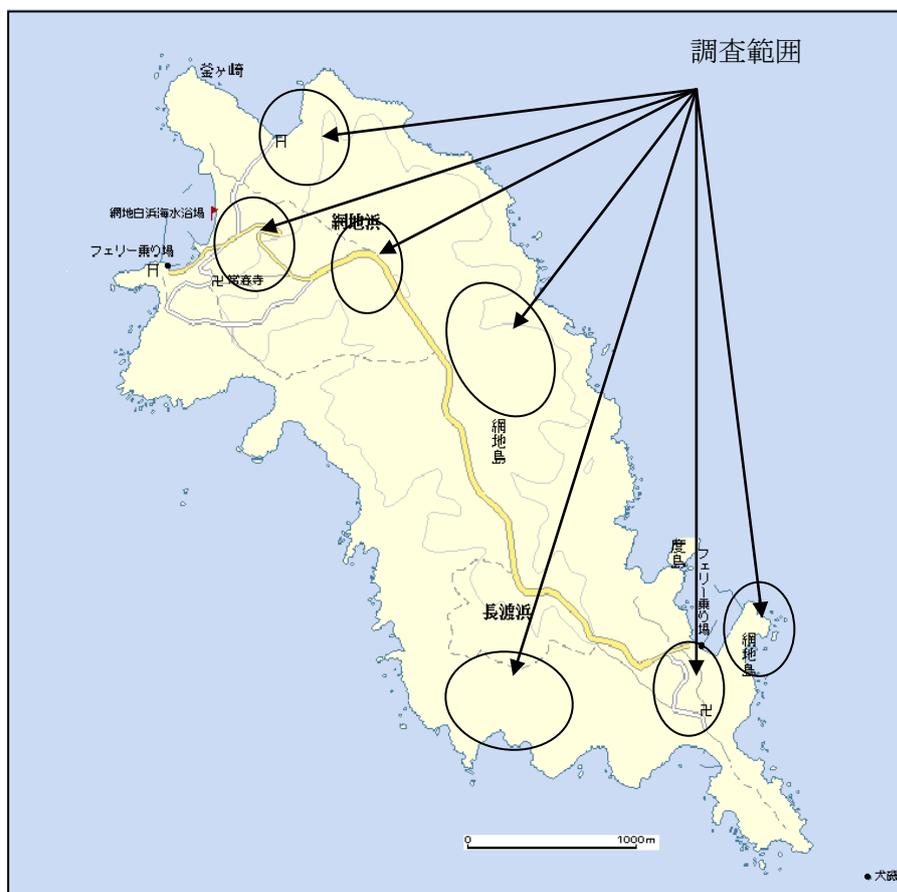
(1) 網地島

ア 調査地区の概要と調査の目的

網地島は、牡鹿半島の南約2キロメートルに浮かぶ面積約6.6平方キロメートルの外洋に面した離島である。気候的には海洋性気候を示しており、タブノキ林、クロマツ自然林などが広く分布している。また、注目すべき暖地性や寒地系の植物が生育することが報告されている。(高橋和吉氏：網地島植物誌、1972)

昨年度の調査で目標とした島の代表的な植生の現状把握については、タブノキ群落についてはある程度できたが、湿地に分布するとされているミヤマハンノキークヌギ林の実態やクロマツ自然林については調査できなかった。今年度は昨年度の結果を踏まえて、さらに島全体の植生を把握することを目指しながら

- ・クロマツ自然林の現状を把握する
- ・ミヤマハンノキークヌギ林の実態について明らかにすることを目的とした。



イ 調査結果についての考察

a ミヤマハンノキークヌギ林の実態について

昭和40年代の植生図（高橋和吉氏：網地島植物誌、1972）にミヤマハンノキークヌギ林として区分されている池ノ浜地区の湿地周辺で現状を確認するために調査を行った。その結果、ミヤマハンノキとされていたのはハンノキの変種であるケハンノキであることが判明した。クヌギは確認されなかった。

湿地の中はヨシ・カサスゲ群落となっており、一部に小面積のケハンノキ低木群落（ケハンノキーヨシ・カサスゲ群落）が形成されていた。山側の湿地の縁には低木群落の母樹と思われる樹高およそ13メートル、胸高直径25センチメートル前後のケハンノキの成木が見られたが、フジにからみつかれた株が離ればなれに生えているだけであり、林を形成しているとは認められなかった。周辺には、樹木ではヤマグワ、オオシマザクラ、オオバイボタ、アオキ、つる植物ではノイバラ、ミツバアケビ、スイカズラ、キヅタなど、草本ではヨシ、カサスゲ、シロバナサクラタデ、ハッカ、キショウブなどの湿性植物やヨモギ、イヌスギナなどが入り混じって生育しているのが観察された。

網地浜の海岸から道のり1.5キロメートルほどの網地・長渡間の道路沿いに樹高およそ12メートル、胸高直径40センチメートル前後のクヌギが優占し常緑植物の目立つ林分があり調査した。

高木層にタブノキ、クロマツ、カスミザクラを混生し、低木層でアオキ、草本層でヤブコウジが優占するクヌギーアオキーヤブコウジ群落である。

亜高木層にイヌシデ、コナラ、オオバイボタ、ヒサカキが、低木層にはクロモジ、ヤマツツジ、レンゲツツジ、マユミ、マサキ、ニシキギ、ヤマウグイスカグラ、ガマズミ、モミジイチゴが、草本層にはオオバジャノヒゲ、シヨウジョウスゲ、ウラシマソウ、ミミガタテンナンショウ、アマドコロ、アキカラマツ、ツリガネニンジンなどが生育し、テリハノイバラ、テイカカズラ、キヅタ、ミツバアケビ、ツルウメモドキ、ツタウルシなどのつる植物が目立った。

優占種のクヌギは林床に後継樹が見られず高木だけなので、植林に由来するクヌギ人工林からタブノキ・イヌシデ林への遷移が進行している群落と考えられる。

以上の調査と周辺の観察から、池ノ浜の湿地周辺には以前にケハンノキ群落があり、将来、この湿地にケハンノキ群落が形成される可能性はあると考えられるが、植栽等の人為によらない限り、ケハンノキークヌギ林が出現する可能性はないと思われる。

b アカマツ林の現状

島中央部の北寄りの尾根筋下部のやや乾いた環境のアカマツ林と斜面下部のやや湿った環境でアカマツが立ち枯れ状態となっている場所の2箇所を調査を行った。

尾根筋下部の乾いた環境では、胸高直径50センチメートル前後のアカマツが優占する群落高15メートルの高木群落となっている。林床にタブノキをはじめ常緑樹種が多く出現し、亜高木層でヒサカキ、低木層でトベラ、草本層でヤブコウジが優占するアカマツ-ヒサカキ-トベラ-ヤブコウジ群落である。常緑樹種は他にイヌツゲ、テイカカズラ、アオキ、ヤツデ、シュロなど、落葉樹種はクリ、カスミザクラ、ヤマウルシ、ヤブムラサキ、クロモジ、ヤマツツジが出現する。草本ではショウジョウバカマ、オオバギボウシの出現が特徴的である。

斜面下部の湿った環境では、高木層は樹高11メートル、胸高直径15センチメートルのタブノキ2株だけであり、あとは枯れたアカマツだけとなっていた。亜高木層でヒサカキ、低木層でヤマツツジ、草本層でショウジョウスゲが優占するアカマツ-ヒサカキ-ヤマツツジ-ショウジョウスゲ群落からタブノキ群落へと遷移が進行している群落と思われる。尾根筋下部の群落と比較すると落葉樹種はカスミザクラ、マルバアオダモ、ヤマウルシ、ツリバナ、ガマズミ、クロモジ、ヤマウグイスカグラ、メギと多く、常緑樹種はトベラ、イヌツゲ、ヤブコウジがわずかに出現するだけであり、つる植物はツタウルシのみである。

以上の調査と周辺での観察から、網地島のアカマツ林の現状は、環境により進行の速度や状態に違いはあるが、おおむねタブノキ林への遷移の途中にあると考えられる。

c クロマツ林の現状

網地島植物誌（高橋和吉氏 1972）にタブノキ、ヤマザクラを混生するクロマツ自然林があると記録されている長渡浜のスズ網において現状を確認するため調査を行った。クロマツ林は全部伐採され、新しくクロマツの苗木が植栽されていた。海拔およそ20メートルから40メートルほどの緩斜面のところどころに伐採を免れたタブノキの若木、海岸近くにはオオシマザクラの株が残されていることから、タブノキやオオシマザクラを混生するクロマツ林があったことは推察された。

島の北側にはクロマツ林が立ち枯れ状態になっている場所もあるが、調査できなかった。

網地島のクロマツ林の現状としては、タブノキ林への遷移の途中で伐採され新しく苗木が植えられたところや立ち枯れ状態になっているところがある

ということである。

d タブノキ林の調査について

昨年度は島の北部でタブノキ群落の調査を行ったが、タブノキ林は網地島の代表的な植生であり、島全体にわたり多くの調査資料に基づいて実態を把握する必要がある。今年度は網地浜髪剃坂付近と網小医院付近でタブノキ群落の調査を行った。

網地浜^{かみそりきか}髪剃坂付近には、北斜面にケヤキ、エノキ、ホオノキ、クマノミズキ、オオシマザクラ、カスミザクラなどの落葉樹を混生する高さおよそ10メートル、胸高直径20センチメートル前後のタブノキが優占する林分がある。低木層でアオキ、草本層ではトクサが群生しており、タブノキ・ケヤキーアオキトクサ群落と呼ぶことができる。落葉樹種ではハリエンジュ、カスミザクラ、ニシキギ、マユミ、ウグイスカグラが、常緑樹種ではトベラ、シュロ、ヤブコウジ、キツタ、テイカカズラなどが出現する。草本植物ではホタルカズラ、ウラシマソウ、オオバジャノヒゲなどがわずかに見られるだけである。トクサの少ないところでは常緑のトベラ・テイカカズラが多くなり、タブノキ・ケヤキーアオキーテイカカズラ群落となっている。

島のほぼ中央部にある網小医院付近には、カシワ、オオシマザクラ、ハリエンジュを混生する高さおよそ12メートル、胸高直径60センチメートル前後のタブノキが優占する林分がある。低木層ではアオキ、草本層ではオオバジャノヒゲが優占するタブノキ・カシワーアオキーオオバジャノヒゲ群落である。群落を構成する樹種は少なく常緑樹種では亜高木のヒサカキ、低木層のシュロ、草本層のヤブコウジだけである。落葉樹種は低木層のナツハゼ以外はクロモジ、ムラサキシキブ、ニワトコなどですべて草本層での出現である。草本はウラシマソウ、ミミガタテンナンショウ、サイハイラン、アマドコロ、アカネ、ヤエムグラ、チゴユリが出現する。

どちらの群落も、タブノキーヤブコウジ群落としてまとめられるが、その中で人為の影響を受けて成立したタブノキ二次林の異なる姿を示しているといえる。

今後もこのような調査を続けることでタブノキ林を主とした網地島の自然の姿がより深く把握できるのであって、網地島のタブノキ林についての調査はまだ途中である。

e シャジクソウの生息地について

昨年度の調査では詳しく観察できず生育を確認した程度であったが、今年度は周辺に生育している植物も含めて観察・記録することができた。シャジクソウ群落の中に生育している植物は、アオノイワレンゲ、ハマボッスだけ

であり、周辺のハマギクを含めてもわずか3種だけであった。

ウ レッドデータブック（RDB）掲載種について

今回の調査で確認できたRDB掲載種は、次のとおりである。

- ・環境省絶滅危惧Ⅱ類 ノダイオウ
- ・宮城県絶滅危惧種Ⅰ類 シヤジクソウ
- ・宮城県絶滅危惧種Ⅱ類 ノグサ
- ・宮城県準絶滅危惧種 ホタルカズラ
- ・宮城県要注目種 ノダイオウ、オオシマザクラ、カジイチゴ、
テリハラノイバラ、ヤブムラサキ

エ 調査で確認した植物等の状況

a 池ノ浜

・池ノ浜での調査風景



・カサスゲ群落



・フジ



・ケハンノキ



・ホタルカズラ



・シロバナツユクサ



・ヨシ群落



b スズ網

・ヒメハギ



・ノグサ



・ヤマツツジ



・伐採後のクロマツ植林



・オオゾウムシ



c 県道沿い

・レンゲツツジ



・クサボタン



・タブノキ林の林床



・タブノキ林の低木層



・植樹事業跡



・植樹事業の樹種を示す看板



d 県道と東側海岸の中間の湿地

・ショウジョウバカマ



・ウマノアシガタ



・ホオノキ



・アオスジアゲハ



・ミスジチョウ



・湿地の植生



・ツクバネウツギ



・ショウジョウスゲ



e シャジクソウ

・シャジクソウ群落



・シャジクソウ



オ 今回の調査で確認した動植物一覧

a 5月23日分

(a) 植物

科名	種名	花・実	備考
トクサ科	イヌドクサ		
	トクサ		
	イヌスギナ		
コハノイシカクマ科	ワラビ		
オシダ科	クマワラビ		
クルミ科	オニグルミ		
ヤナギ科	イヌコリヤナギ		
	オノエヤナギ		
	キツネヤナギ		
	ハッコヤナギ		
カバノキ科	イヌシデ		
	ケハンノキ	実	
	ヤマハンノキ		
ブナ科	カシワ		
	クヌギ		
	チラガシワ		
ニレ科	エノキ		
クワ科	カラハナソウ		
	ヤマグワ		
タデ科	シャクチリソバ		帰化植物
	シロバナサクラタデ		
	スイバ		
	ナガバギシギシ		
	ノダイオウ		要注目種(宮城県)、絶滅危惧Ⅱ類(国)
ナデシコ科	ミゾソバ		
	ウシハコベ		
	オオヤマフスマ		
	コハコベ		
クスノキ科	ミドリハコベ		
	クロモジ		
	シロタモ		
アケビ科	タブノキ		
	ミツバアケビ		
ドクダミ科	ドクダミ		
ツバキ科	ヒサカキ		
ケシ科	クサノオウ		
アブラナ科	ナズナ		
	ハナダイコン		帰化植物
	ヤマタネツケバナ		
ベンケイソウ科	ツルマンネングサ		
トベラ科	トベラ		
バラ科	アサギリザクラ		
	オオシマザクラ	実	要注目種(宮城県)
	カジイチゴ		要注目種(宮城県)
	キジムシロ		
	ナワシロイチゴ		
	ヤブヘビイチゴ		
	ヤマナシ		

マメ科	コマツツメクサ		帰化植物
	シロツメクサ	花	帰化植物
	セイヨウミヤコグサ		帰化植物
	ニセアカシア	花	帰化植物
	フジ	花	
	ムラサキツメクサ	花	帰化植物
	ヤハズエンドウ	花	
	ヤマハギ		
カタバミ科	エゾタチカタバミ	花	
	カタバミ	花	
トウダイグサ科	トウダイグサ		
ミカン科	サンショウ		
ヒメハギ科	ヒメハギ	花	
ドクウツギ科	ドクウツギ		
ニシキギ科	ツルウメモドキ		
	ニシキギ		
	マサキ		
グミ科	カラアキグミ		
ミズキ科	アオキ		
ウコギ科	キツタ		
セリ科	セリ		
	ヤブヅラミ		
ツツジ科	ナツハゼ		
	ヤマツツジ	花	
ヤブコウジ科	ヤブコウジ		
モクセイ科	オオバイボタ		
キョウチクトウ科	ツルニチニチソウ	花	逸出植物
アカネ科	アカネ		
	オオバノヤエムグラ		
	ヤエムグラ		
ヒルガオ科	ハマヒルガオ	花	
クマツヅラ科	ムラサキシキブ		
シソ科	カキドオシ	花	
	オドリコソウ		
	ヒメオドリコソウ	花	帰化植物
	ハッカ		
	セイヨウジュウニヒトエ		帰化植物
ゴマノハグサ科	オオイヌノフグリ		帰化植物
	キリ		
	タチイヌノフグリ	花	帰化植物
スイカズラ科	ガマズミ		
	スイカズラ		
	ニワトコ		
キク科	エゾタンポポ	花	
	オオジシバリ	花	
	オニタビラコ		
	オニノゲシ		
	セイヨウタンポポ	花	帰化植物
	チチコグサ		
	ニガナ		
	ノアザミ		
	ノボロギク		
	ハハコグサ	花	
	ハルジオン	花	帰化植物
	フキ		
	フタナ		帰化植物
	ヤブタビラコ		
ヨモギ			

ユリ科	アマドコロ	花	
	オオバジャノヒゲ		
	サルトリイバラ		
	チゴユリ		
	ノビル		
アヤメ科	ヒメヒオウギスイセン	花	逸出植物
イグサ科	イグサ		
	スズメノヤリ		
ツユクサ科	シロバナツユクサ	花	
イネ科	イヌムギ		帰化植物
	オニウシノケグサ		帰化植物
	カモガヤ		帰化植物
	カモジグサ		
	カラスムギ		帰化植物
	コバンソウ		帰化植物
	スズメノカタビラ	花	
	スズメノチャヒキ		
	チガヤ		
	トボシガラ		
	ナガハグサ		
	ヌカボ		
	ミゾイチゴツナギ		
	ヨシ		
カヤツリグサ科	アオスゲ		
	アワボスゲ		
	カサスゲ		
	カワラスゲ		
	コウボウシバ		
	コジュズスゲ		
	ショウジョウスゲ		
	ノグサ		絶滅危惧Ⅱ類(宮城県)
	ヒカゲスゲ		
	ヤシ科	シュロ	
サトイモ科	ウラシマソウ	花	
	キショウブ		帰化植物
	ミミガタデンナンショウ		
ガマ科	ガマ		
	コガマ		
ラン科	サイハイラン		

(b) 動物

類	目・科	種名
昆虫類	鱗翅目アゲハチョウ科	アオスジアゲハ
	鱗翅目シジミチョウ科	アカシジミ
	鱗翅目アゲハチョウ科	アゲハ
	鞘翅目ゾウムシ科	オオゾウムシ
	鞘翅目コガネムシ科	ハナムグリ
鳥類	ヒタキ科ウグイス亜科	ウグイス
	タカ科	トビ
	カラス科	ハシボソガラス
	ヒヨドリ科	ヒヨドリ
	ミツスイ科	メジロ
爬虫類	カナヘビ科	カナヘビ

b 5月24日分

(a) 植物

科名	種名	花・実	備考
トクサ科	トクサ		
ゼンマイ科	ゼンマイ		
コバノイシカグマ科	ワラビ		
マツ科	アカマツ クロマツ		
カバノキ科	イヌシデ		
ブナ科	クヌギ		
	クリ		
	コナラ		
ニレ科	エノキ		
	ケヤキ		
ナデシコ科	オオヤマフスマ		
モクレン科	ホオノキ	花	
クスノキ科	クロモジ		
	タフノキ		
キンポウゲ科	アキカラマツ		
	ウマノアシガタ		
	ケキツネノボタン		
	センニンソウ		
メギ科	メギ		
アケビ科	アケビ		
	ミツバアケビ		
ツバキ科	ヒサカキ		
ベンケイソウ科	アオノイワレンゲ		
ユキノシタ科	トリアシショウマ		
トベラ科	トベラ		
バラ科	オオシマザクラ		要注目種(宮城県)
	カスミザクラ		
	ココメウツギ		
	テリハノイバラ		要注目種(宮城県)
	ノイバラ		
	モミジイチゴ		
マメ科	シャジクソウ	花	絶滅危惧Ⅰ類(宮城県)
	ニセアカシア	花	帰化植物
ミカン科	サンショウ		
ウルシ科	ツタウルシ		
	ヤマウルシ		
カエデ科	イロハモミジ		
モチノキ科	イヌツゲ		
ニシキギ科	ツリバナ		
	ツルウメモドキ		
	ニシキギ		
	マサキ		
ミズキ科	マユミ		
	アオキ		
ウコギ科	クマノミズキ		
	キツタ		
セリ科	ヤツデ		
	オヤブツラミ		

ツツジ科	ヤマツツジ	花	
	レンゲツツジ	花	
ヤブコウジ科	ヤブコウジ		
サクラソウ科	ハマボツス		
モクセイ科	オオバイボタ		
	マルバアオダモ		
キョウチクトウ科	テイカカズラ		
アカネ科	アカネ		
ムラサキ科	ホタルカズラ	花	準絶滅危惧種(宮城県)
クマツヅラ科	ヤブムラサキ		要注目種(宮城県)
シソ科	ヒメシロネ		
ゴマノハグサ科	キリ		
	フラサバソウ		帰化植物
スイカズラ科	ウグイスカグラ		
	ガマズミ		
	ツクバネウツギ		
	ヤマウグイスカグラ		
キキョウ科	ツリガネニンジン		
キク科	エゾタンポポ	花	
	キッコウハグマ		
	シラヤマギク		
	ハマギク		
ユリ科	アマドコロ	花	
	オオバギボウシ		
	オオバジャノヒゲ		
	サルトリイバラ		
	ジャノヒゲ		
	ショウジョウバカマ	花	
	チゴユリ		
ヤマユリ			
タケ科	クマイザサ		
イネ科	カモジグサ		
カヤツリグサ科	ゴウソ		
	ショウジョウスゲ		
	ヒカゲスゲ		
	ヒメゴウソ		
	ミノボロスゲ		
ヤシ科	シュロ		
サトイモ科	ウラシマソウ	花	
	マムシグサ	花	
	ミミカタテンナンショウ		
ラン科	シュンラン		

(b) 動物

類	目・科	種名
昆虫類	鱗翅目アゲハチョウ科	アゲハ
	鞘翅目ゾウムシ科	オオゾウムシ
	甲虫目ハンミョウ科	ニワハンミョウ
	鱗翅目タテハチョウ科	ミスジチョウ
鳥類	シジュウカラ科	シジュウカラ
	セキレイ科	セクロセキレイ

(2) 波板大磯

ア 調査地区の概要と調査の目的

大磯は、女川町との境にある無人の小島であり、満潮時には島であるが干潮時には陸続きとなる。

石巻市内の無人島においては、比較的面積の広い島ではタブノキ群落が成立するが、小さい島ではタブノキ群落は見られず、多くはアカマツ群落となっているのが普通である。

大磯の植生等については、これまで調査された記録はない。ある程度の面積があり、比較的集落から遠い環境にある大磯の植生の確認と植物相調査、併せて周辺の主な植生を把握することを目的とした。



イ 調査結果についての考察

a 大磯

島の下部ではごろごろとした岩が転がっており、アサツキ、ハマボッス、ハマエノコログサ、ナガミノオニシバなどの海岸植物が小さな群落を形成している。上部のやや土壌が発達した場所では、高さおよそ4メートルのアカマツ低木林が形成されており、アカマツが生えていない場所には、ハマハイビヤクシンとススキが目立つ植生となっている。

(a) アカマツ低木群落

高さ3メートルから4メートル、胸高直径20センチメートル前後のアカマツが優占するアカマツ低木林で、林床には北方系の海岸植物のコハマギクが目立つ。全体としてアカマツ－コハマギク群落としてまとめられる。木本ではマルバアオダモ、コナラ、ハマハイビャクシン、草本では海岸植物のアオノイワレンゲとススキ、ヒメヤブランが出現する。

頂上尾根筋ではアズキナシを混生し、林床にはシダ植物のシノブが目立つ。東側斜面では海岸生のクロマツ、トベラを混生し、林床にはモミの幼苗やヤマユリ、コイケマなどが出現する一方、西側斜面ではネズミサシを混生し、ヒサカキの幼木やエゾカワラナデシコ、ハマギクが出現する。

(b) ハマハイビャクシン・ススキ群落

北西斜面上部の急傾斜地のアカマツの生育していない場所には、ハマハイビャクシン低木群落とススキ群落が一体となって、群落高およそ40センチメートルのハマハイビャクシン・ススキ群落を形成している。木本ではアカマツ、マルバアオダモ、マユミ、フジ、草本ではシノブ、アオノイワレンゲ、ヒメヤブラン、オオウシノケグサ、アキノキリンソウ、ヤマユリと、群落を構成する植物は全部で12種であった。

(c) 植物相について

今回の調査で確認された植物は、品種、変種も1種として数えると、シダ植物1種、裸子植物5種、被子植物32種の合計38種であった。木本は16種、草本は16種となっている。裸子植物以外の常緑植物は、木本ではヒサカキ、トベラであるが、数、量ともにごくわずかで、草本はヒメヤブランのみである。海岸性の植物は北方系のものがほとんどである。

帰化植物はセイタカアワダチソウ1種だけで、それも下部の岩場に数本だけの生育が確認できただけであり、島の自然環境は今のところは良好に保たれていると思われる。

今回は島全体ではなく北半分だけしか調査できなかったが、島の植物的自然については、おおよそそのことが把握できたのではないかと考える。

b 対岸の植生について

島の対岸は、モミが林床の各階層で目立つ自然度の高いモミ・落葉広葉樹林となっている。特に海岸に近い環境では、高さ18メートル胸高直径70センチメートル前後のモミが、コナラ、ケヤキ、カスミザクラなどを混生しながら、低木層でトベラ、草本層でオオバジャノヒゲが優占するモミ－トベラ－オオバジャノヒゲ群落を形成している。群落の構成種はモミ林、ケヤキ林、コナラ林の構成種と共通するものが大部分であるが、草本層にはトベラが多く、タブノキの稚樹もわずかながら認められた。

モミートベラーオオバジャノヒゲ群落の上部では、より内陸型と考えられるモミ・イヌシデーイヌガヤーオオバジャノヒゲ群落となっている。

ウ レッドデータブック（RDB）掲載種について

今回の調査で確認できたRDB掲載種は、なかった。

エ 調査で確認した植物等の状況

・大磯



・ハマボッス



・モミ林の林床



・カワラナデシコ等



・キリンソウ



オ 調査で確認した植物等一覧

科名	種名	花・実	備考
シノブ科	シノブ		
マツ科	クロマツ		
	アカマツ		
	モミ		
ヒノキ科	イブキ		
	ネズミサシ		
	ハマハイビヤクシン		
フナ科	コナラ		
クワ科	ヤマグワ		
イラクサ科	ラセイタソウ		
ナデシコ科	エソカワラナデシコ	花	
	ハマツメクサ	花	※
アカザ科	コアカザ		※
ツツラフジ科	アオツツラフジ		
ツバキ科	ヒサカキ		
ベンケイソウ科	アオノイワレンゲ		
	キリンソウ	花	
トベラ科	トベラ		
バラ科	アズキナシ		
マメ科	フジ		
ウルシ科	ツタウルシ		
ニシキギ科	マユミ		
ツツジ科	ヤマツツジ		
サクラソウ科	ハマボツス	花	
モクセイ科	マルバアオダモ		
ガガイモ科	コイケマ		
アカネ科	カワラマツバ		
ゴマノハグサ科	ハマヒチノウスツボ		※
スイカズラ科	スイカズラ		※
キク科	アキノキリンソウ		
	オノゲシ		※
	コハマギク		
	セイタカアワダチソウ		
	ハマギク		
ユリ科	アサツキ	花	
	スカシユリ		
	ヒメヤブラン		
	ヤマユリ		
イネ科	オオウシノケグサ		
	ススキ		
	チガミノオニシバ		
	ハマエノコロ		
	ハナムギ	実	※
	ヤマカモジグサ	花	※

備考欄に「※」印を付けたものは、島の対岸で確認されたものである。